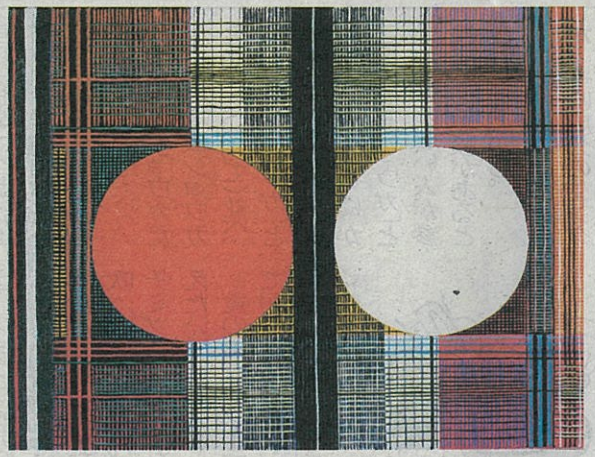

「作品（二つの丸）」
1958年、油彩、カンバス
31・8×40・9センチ

〈名画の扉〉

大川美術館企画展から

オノサト・トシノブ（1912～86年）

展示室2では今、松本竣介「街」の前に立つと、その視野の向こう側に。あるいは、フランク・ステラ、アンディ・ウォーホル、上田薫、ジャスパー・ジョーンズと見てきてまわり込めば、間近の壁面に、というように、オノサト・トシノブの作品が4点並んで展示されています。

平面性、明快さ、明るさといった感触をオノサトの作品はいつでも携えています。一歩、二歩、と作品に近寄って親しくいつまでも丹念にながめたくなる、そんな作品です。

初代館長・大川栄二はオノサト・トシノブ展（2005年）によせて書いています。「小生がオノサト氏と晩年にアトリエで閑談せる際、『曼荼羅（まんだら）ではない、曼荼羅以前のものだ』との静謐（せいひつ）で重い言葉でいわれたことが、今ようやく肌で理解でき、熱い何かに胸を突き上げられる思いである」と。

長い時間をかけてオノサトの作品と向き合い続けてきた大川の実感のこもった一文です。オノサトの晩年に、大川がそのアトリエで過ごした時間の質もまた、こうした言葉の断片から読み解いてゆけることもあるのでしょう。

（小此木）